

■酒井勝軍 独自のキリスト教伝道者、ユダヤ同祖論者、オカルティスト。いわゆる“日本のピラミッド”の発見者。

さかいかつとき  
佐賀の乱・・・1874＝

山形県上山町で、旧上山藩士で県役人山下吉重の次男に生まれる。母も旧藩士の娘睦子。幼名は勇吉。

幼少時に、旧藩主の命で、縁戚関係にあった酒井家再興のために、その名跡を継ぎ、

資産家であったが、祖父が散財家だった旧藩主に直言して逆鱗に触れ、主従関係を断たれると、自ら家産を蕩尽して破産に至る間、祖父が開いていた私塾で学び、四書五経を暗誦できるほどになる。

明治14年政変1881＝7歳：末弟正巳が誕生。兄弟姉妹の数名が夭折し、長兄寛一と末弟の3人兄弟として育つ。

岩倉具視没・1883＝9歳：  
秩父事件・・・1884＝10歳：父の北村山郡役所への転身に伴い、東根小学校に転校、

帝国大学始・1886＝12歳：卒業。押川方義によって上山に設立された教会に入信するうち、山形英学校のことを知り、  
国民之友始・1887＝13歳：父に連れられ、教頭松村介石と面談、奇遇奇縁に強い印象を受けて入学、人生の師となる。  
初の対等条約1888＝14歳：家が破産して退学、精神的ダメージから逃れるべく、日本基督一致教会山形講義所で山形英学校の外国人教師J.P.ムーアから受洗した後、一家で夜逃げ同然に上京、

帝国憲法発布1889＝15歳：両親が開いた団子屋の店番をしながら、本郷の菊坂教会に入信するうち、長兄が兵役にとられ父が病弱、  
極貧となり、一家を支えようと、母の内職花札貼りを本業とすべく没頭、脊椎は曲がり、心臓は弱り、脚  
気も出る重篤になるも、なんとか生き延び、健康回復を兼ねて牛乳配達店に住みこむうち、体調限界、回復  
した父が仕事を果たしたことに喜ぶ。この体験をキリスト蘇生と重ね合わせて意識すると、

帝国議会始・1890＝16歳：その導きか、恩師松村介石から仙台神学校(東北学院)への進学を誘いがあり、名を勝軍と改めて、入学。  
馬馬黒光ら押川門下の間で伝説となるような苦学しながら、神学校の文芸雑誌に盛んに寄稿し始め、  
大本教・・・1892＝18歳：押川から受洗していた島貫兵太夫がこの年設立した(東北救世軍)の影響も受けて、貧民宿体験、  
日清戦争始・1894＝20歳：ある西洋婦人から奨学金も出て、普通科を卒業。早くも異端の診断で、英語神学部へは進まず、帰郷。  
日清戦争終・1895＝21歳：日清戦争で兵役にとられた長兄の代りに家計を支えるべく帝大付属病院の事務員となり、やがて伝道の席で  
看護論を契機に各所の看病婦会から引っ張りだこに。在学中惹きつけられた音楽の論を諸誌に発表し、新聞  
社を設立して月刊新聞を発行する間、長兄の戦死に続きその妻と娘が病死、母まで死去する悲嘆の1年。

白馬会・・・1896＝22歳：自分の新聞社から、筆名秋野茂で、初の著作「伯多(ピョートル)大帝」刊行後、  
子規句歌革新1898＝24歳：戦死した兄への賜金の一部を貰い音楽研究のため、渡米。サンフランシスコで、日本人基督教青年団のため  
に、英語教師と新聞編集発行をした後、シカゴに行き、シカゴ音楽大学に学ぶが、寄寓していた家が破産  
して窮乏、寒さにも耐えられず、倒れたところを救われ、ムーディの聖書学院に入学できた上、

田中正造直訴1901＝27歳：音楽科に居座り、訪米中の伊藤博文と面会し、神秘体験をし、教会からの講演依頼に追われるなどして、  
教科書疑獄・1902＝28歳：帰国。早速、讚美歌指導運動を展開、  
日比谷公園・1903＝29歳：父が死去、宮城女学校卒業生と結婚。「うれしき鐘歌」「英語唱歌集」などを刊行し、東京唱歌学校を設立。  
日露戦争始・1904＝30歳：「新式日本唱歌第一編」刊行。日露戦争が始まると従軍すべしと、堪能な語学をいかして視察外国武官接待  
係となり、参謀クラスの接遇を受けて、実戦を目撃。それまでの反戦平和志向が一気に崩壊、

日露戦争終・1905＝31歳：戦場にこそ真の美があると世界観を大転換して凱旋。キリスト教界の革新者として「讚美奨励会」を組織し、  
満鉄発足・・・1906＝32歳：「讚美の友」誌を発刊。「讚美論」「教育と音楽」を刊行、湯谷蹇一郎と「クリスマス讚美歌」を編刊。博文館(中  
学世界)の特集号に「酒井勝軍君の渡米苦学実話」が掲載される。

韓国反日暴動1907＝33歳：大杉栄らとともに、エスペラント語学校第一回卒業生となる。  
アヲヲ創刊・1908＝34歳：病弱な妻ではあったが、長女が誕生。  
伊藤博文暗殺1909＝35歳：「讚美奨励会」として、宣教50年記念イベント“富士山上礼拝”を実施、竹久夢二も参加している。

韓国併合・・・1910＝36歳：  
明治天皇没・1912＝38歳：  
第一次大戦始1914＝40歳：\*渋谷の夜空に、幻影(異象)を見て靈感に打たれ、それまでの思想信仰を総括することになり、  
21ヶ条要求・1915＝41歳：小冊子「忠君愛国は神の命令なり」で報告、世界統一神政復古を唱え、第一次大戦にハルマゲドンを読む。  
ロシア革命・1917＝41歳：成果上がらなかった「讚美奨励会」を(国教宣明団)と改称、機関誌も{シオン}と改め、表紙に異象を描く。  
本格政党内閣1918＝44歳：論文「世の終り近づけり悔い改めよ」シベリア出兵にも陸軍英語高等通訳官として従軍し、  
ベルリン条約・1919＝45歳：この年、ユダヤ禍の原因となった偽書「シオンの議定書」の翻訳が雑誌{シオン}で発表される。  
白軍将校接待で、「シオンの議定書」と反ユダヤ主義の存在を知って、

原敬首相暗殺1921＝47歳：  
関東大震災・1923＝49歳：凱旋すると、一気呵成に、  
護憲三派圧勝1924＝50歳：\*「猶太人の世界侵略運動」「猶太民族の大陰謀」「世界の正体と猶太人」を相次いで発表し、日本に反ユダヤ  
主義の存在を紹介。「進んで米國を敵とすべし」刊行。「猶太の七不思議」では、渋谷で見た異象を紹介。

金融恐慌・・・1927＝53歳：もともとは単純な反ユダヤ主義でなく、次第に親ユダヤ的なものになっていく。シベリア出兵で出会った  
安井仙弘の、満州経営にユダヤ資本の導入を目指し、同時にアメリカとの関係強化を画策する河豚計画に影  
響を与える。酒井にシオン賢者の議定書を出版させたのも安江だと言われている。  
共産党事件・1928＝54歳：「神州天子国」出版。安江が親ユダヤに転換することになる。パレスチナやエジプトに大日本帝国陸軍からユ  
ダヤ研究のために派遣され、エジプトではピラミッドも研究して、帰国。

世界恐慌・・・1929＝55歳：渋谷で見た異象を描く絵を掲載した「檜嶺山上疑問の旗」出版。  
海軍軍縮条約1930＝56歳：同好者とともに、天津教総本山の皇祖皇太神宮に、前年公開され竹内巨磨が所有し、のちに偽書とされる  
竹内文書を拝観。また、竹内巨磨を訪ね古代イスラエルのオニックスを求めて発見したとして、「参千年間  
日本に秘蔵せられたるモーセの裏十戒」を出版。さらに2度、皇祖皇太神宮訪問し、

満州事変・・・1931＝57歳：「神代秘史」を出版。  
五一五事件・1932＝58歳：「天皇礼賛のシオン運動」出版。  
帝人疑獄事件1934＝60歳：「日猶協会」を設立するが、ユダヤ禍論などのおおりで、売国的結社と誤解されて活動できず、  
府中町専売出張所所長である堀準衛一らとともに、広島県庄原市を調査し、葦嶽山をピラミッドであると  
断定。中国新聞記者らに公開調査させて、全国の新聞に報じられ、広島県の山村の村が一躍脚光を浴び、続  
々と見物客が押し寄せることになり、

芥川直木賞始1935＝61歳：「神代秘史」出版。\*飛騨高山でピラミッド上野平を“発見”。「太古日本のピラミッド」出版。その後、続々と“  
日本のピラミッド”が“発見”されて、現在に至る。

二二六事件・1936＝62歳：「神秘之日本社」を創刊、雑誌「神秘之日本」を創刊、この年起きた皆既日食の詳細な論考で巻頭を飾る。「神字  
考」出版。天皇を世界に君臨すべきものと唱えるにもかかわらず、第二次天津教事件に連座し、検挙され、「  
神代秘史百話」が発禁になるなど、しばしば特別高等警察に押収され、拘束もされるが、弾圧に屈せず、  
日中戦争始・1937＝63歳：起訴猶予後、「竹内文書」の世界を主張し続け、「日猶協会」を(神政復古世界同盟)へ発展的に解消させると  
ともに、ユダヤ禍論を批判し、「天孫民族と神撰民族」出版で、明確にシオニズム支持の立場を表明、

健保+総動員1938＝64歳：(神秘之日本)に論文「神政復古」を連載し、「天魔兩軍の決戦ハルマゲドン」を刊行。岩手県釜石市西の五葉  
山裾野を調査し、付近の川原で“ヒヒロカネ”を発見したという。

第二次大戦始1939＝65歳：翌年にかけて(神秘之日本)に自叙伝「天狗岩 処女林跡六十一年」連載。地元10人と、なお岩手県五葉山の調  
査続けるうち、過労により、若年からの健康問題が再発し、  
大政翼賛会・1940＝66歳：\*心臓弁膜症により、没した。(神秘之日本・終結号 酒井勝軍先生追悼号)が刊行される。